

みえるらべる商品の通年販売店舗を確保

「みえるらべる」の普及に向け、生産者・産地への生産拡大の働きかけ、消費者への行動変容の働きかけを両輪で推進。みえるらべる商品の通年販売店舗を10店舗確保。

○ 施策分類

- ・みどりの食料システム戦略(農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」)

○ きっかけ・背景、課題の把握

- ・岐阜県内に「みえるらべる商品」の通年販売店舗がない。
- ・昨年の取組(JA、生産者及び消費者等への周知)では、広がりが不十分。

○ 取組の内容

- ・生産拡大の働きかけ

- ①各JAの幹部を訪問し直接「みえるらべる」の取組を働きかけるとともに、JA全農岐阜に対しJAの取組への支援を依頼。その結果、JAにしみのの特別栽培米で「みえるらべる」の取組が実現し、同JAの農産物直売所7店で販売開始。
- ②環境に配慮した生産を実践しているJAの作物別生産組合の役員や組合員、JAの担当職員を訪問し「みえるらべる」の取組を働きかけ。
- ③環境に配慮した生産を実践している生産者を個別に訪問し「みえるらべる」の取組を働きかけ

- ・消費行動変容の働きかけ

- ①若手職員が「みどりTokai2025岐阜県拠点チーム」を結成し、イベントに出展(イオン各務原インター店(新規)、岐阜県農業フェスティバル)。
- ②当拠点で、みえるらべる商品の生産者及び販売場所を紹介したチラシポスターを作成し、イベント等で配布。また、東海局Webサイト「岐阜(地方参事官)の地域農政情報」にも掲載。
- ③岐阜県のアンテナショップ「THE GIFUT SHOP」と「KITANO ACE各務原インター店」に対し県内のみえるらべる商品を紹介し、通年販売商品の取り扱いの拡大を依頼。KITANO ACE各務原インター店で専用コーナーを開設。

○ 効果・成果、今後の方向性

- ・通年販売店舗を10店舗確保(令和8年1月現在)。
- ・新たにJAにしみのの特別栽培米で「みえるらべる」の取組が実現。
- ・出展イベントの追加、集客の工夫(野菜摂取量測定)により、ブース来場者数が増加。
- ・農閑期を利用して、JAの作物別生産組合への働きかけを実施中。
- ・今後も、生産拡大と消費行動変容の両輪で「みえるらべる」を推進



岐阜県農業フェスティバルで野菜摂取量測定を待つ来場者



KITANO ACE各務原インター店での店頭陳列状況

体制図

